

資料館だより

発行

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

見えない壁を越えて

—— 声なき者たちの証言 ——

資料館四周年記念
記録映画会に五百人



高松宮記念ハンセン病資料館は六月二十五日で開館四周年を迎えた。毎年開館記念日には、シンポジウムやフォーラムを開催してきたが、今年は

らい予防法が廃止されたことを受けて制作された記録映画、「見えない壁を越えて」——声なき者たちの証言——の上映会が六月二十二日(日)午後一時より多磨全生園コミュニティセンターで開催された。

電話による問い合わせが次々とあつた。当日は地元東村山市を始め、都下の清瀬、東久留米、小平、田無、保谷、東大和、小金井、調布、日野、多摩、国立、三鷹、国分寺、町田など十五市、

都内の新宿、中野、板橋、練馬、足立、千代田、世田谷など九区、隣の埼玉県からは所沢、狭山、朝霞、入間、志木、新座、日高、浦和の八市、その他、横浜、川崎、伊勢原、平塚、千葉、松戸、桐生、御殿場、豊中の九市と山梨県、福岡県など、全体で四十以上の自治体から五百人以上の人が集まった。会場は車イス、立ち見などあつてぎっしり、入り切れない五十人程の人は資料館ビデオホールで同映画のビデオによる鑑賞を行なった。



映画上映に先立ち、開会の挨拶にたった成田運営委員長は「この映画はハンセン病の歴史の証言を映像化したものである」と述べ、次に大谷資料館館長・藤楓協会理事長は「この映画には百人にのぼる人が証言している。ナチスがユダヤ人を虐殺した『シヨア』という九時間の証言・記録映画があるが、この映画はハンセン病のシヨアである」と述べた。また中山監督は幼い頃からのハンセン病との関わり、黒髪校事件の差別に怒りを覚え、映画「あつい壁」を作ったこと。予防法が廃止されたことを受けて、「どうしてもこの映画を作りたいかった」と述べた。映画の感想については二面参照。

会社員 37才 男性 池袋

すばらしい上映会でした。現在、厚生省が検討している感染症対策の新たな公衆衛生審議会を傍聴していただきます。らい予防法廃止の歴史が生かされ、人権が守られる新法がつけられるようにジャーナリズムも頑張らねばと思いました。(岩波書店宣伝部)

栄養士 49才 女性 横浜

ほんとうにすばらしい記録映画でした。来たかいたがありがとうございました。ほんとうに来て良かった。二

感想文

素晴らしい記録映画 人権守る新法に

時間が短く感ぜられました。ハンセン病について、またその患者さん達の筆舌に尽くしがたい苦勞の数々、学ばせていただきました。ありがとうございます。大学生 21才 女性 山梨

ハンセン病についてほとんど知りませんでした。先輩につれられて八人で山梨からきたのですが、本当に来てよかったです。今でもこれからの生活の保障がないとか、初めて知って自分の無知に腹が立ちました。医学生なので「ハンセン病に関わらず患者の人権を無視するような医者にはならないぞ」とかたく決意しました。

主婦・学生 29才 川崎
たまたま大谷学長先生のいらつしやる大学で勉強をしていることから、ハンセン病について興味を持ちました。色々と資料を読み、過去においてこの様な悲しい事実があったことを知り、本当にショックを受けましたが、この映画を拝見させていただき、より深いものとなりました。

これから先、医療に従事してゆく者として、決して忘れてはならない事実として、これからも勉強してゆきたいと強く感じました。

主婦 38才 所沢

ハンセン病患者の方が長い間苦しんで来たこと、また明治の頃から救済に立ち上がった人がいたということ、その当然ではあるが勇氣ある行動に感心しました。教諭 34才 女性 東村山

最後の方で国は救済ではなく保障をとという話がありました。らい予防法が廃止され、済んだと思っていきましたが、まだまだ問題が残されていることがわかりました。

会社員 27才 男性 志木

当事者の生の声を伝えようとする姿勢が強く感じられました。この映画を見てもっと直接、当事者の方にお会いしてお話が聞きたいと思いました。自分の無知がはずかしく思います。フリーライター 30才 豊中

いつ、どこで、誰が、どんな病気になるかわからない。どんな障害を持つかわからない。この社会にはそんな想像力が欠如している



気がする。この作品を見て、そんな思いを深くした。そして、証言者たちのこれはハンセン病だけに限ったことではないのだ。という言葉が印象に残った。それにしても最後のコダマさんの詩の力強いこと！感動した。

会社員 37才 男性 東村山

国、法律への不信感が増大した。今まで全く知らなかったハンセン病の人々に対する人権無視の扱いに対して、大変国、法律に失望した。法律が正しいという考えを改め、疑いを持って眺めることも必要である。科学で証明される事実が正義である。—略—

会社員 29才 女性 国分寺

とても言葉では言い表せないような侮辱があったことに、ショックをうけてしまいました。知らないで生活してきたことを恥ずかしく思っています。

こういう機会に学ぶことができて大変よかったです。

長島療友ら26名が見学

—昔あかし写真展—

毎年各療養所を二カ所ずつ紹介している写真展、今年は五月一日より六月二十九日まで、資料館研修展示室で「松丘保養園 長島養生園昔むかし写真展」を開催した。

写真は松丘が大雪風景、建物、日本らしい学会、保育所、国立移管、養鶏場、ララ物資、看護切替闘争、盆踊り、勤労奉仕など四十三点、長島は開拓者81名、望ヶ丘の子供たち、愛生座公演、消防訓練、養豚、果樹園、初代(光田)と二代(高島)園長、納骨堂、点字講習、監房、邑久・長島大橋開通など四十三点だが、それぞれ全紙や半折に拡大パネル化して飾られ、見て判る療園の歴史として興味をひいた。



六月二日には三泊四日の

所在市町村連絡協 東京で九年度総会

ハンセン病療養所入所者らの人権を守り、医療、福祉向上のために昭和四十八年より毎年、各地で総会を開き、活動をつづけている

細淵一男(東村山市長)の平成九年度総会が、今年七月十六、十七日の両日東京で開催される。

全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会(会長・

十六日は立川で会議を行い、十七日は全生園資料館の見学も予定されている。

映画のビデオ完成

記録映画「見えない壁を越えて」一二〇分 価格六千円 注文は資料館まで

昨年八月三十一日付東奥日報(青森)夕刊に掲載された日本ハンセン病学会会長高屋豪瑩(こうや・ごうよう)・弘前大医学部付属脳神経疾患研究施設教授(63歳)の投書「ハンセン病が抱える問題点」が事実誤認の上「ハンセン病の差別を助長する」と批判が上がっており、日本ハンセン病学会幹事会が異例の警告文を送った。

しかし、本人には反省の意思がなく、さらに毎日新聞の取材に対して「らい予防法廃止は間違いだつた」「あなたがい患者なら私は逃げる」「患者が社会に受入れられるはずがない」と、時代逆行の発言を行ない謝罪を拒否していた。

日本ハンセン病学会 会長、幹事が総辞任

五月二十二日、弘前市で開催された第七十回日本ハンセン病学会では、成田稔庶務幹事名で謝罪文を出すとともに、高屋会長が自発的に辞任したことを発表した。幹事会では高屋会長を選んだ責任をとり現幹事全員と、次期幹事に内定していた七人全員が辞任をいたしました。

次期学会長には菊池一郎(沖縄県・宮古南静園園長)が決まったが、

心ない一医師の時代錯誤の妄言による各方面への影響は大きくその責任は重大である。

日本ハンセン病学会の新幹事が速やかに決まり、正常化されることを期待されている。

全療協(全国ハンセン病療養所入所者協議会・高瀬重二郎会長)も抗議文を送

資料館駐車場で 観桜のコーラス会

四月九日(水)は全生園の観桜会。今年は桜の開花が例年より早く雨にも

シヨウなどが行われた。模擬店もあり、普段部屋

たたられたが、幸いこの日は好天に恵まれ、花吹雪の舞う中資料館駐車場では恒例の演奏会が開催された。



一八七八(明治十一年)年五月一日、福岡県三猪郡久間田村に生まれた。伝習館第五高等学校を経て東京帝国大学医学部に入った。

卒業後母校衛生学教室において緒方教授の指導を受ける傍ら、東京養育院の医局に出入りし、光田健輔と

先駆者⑫

河村正之

一八七八〜一九三三

方教授の推薦により九州療養所医長兼所長に任ぜられた。

に欧米各国への出張を命ぜられ、一九二七(昭和二)

親交を結ぶに至る。

明治四十二年四月一日、緒

一九二〇(大正九)年三月、熊本県技師を任ぜられるも、同十四年

六月、技師は依頼により免ぜられた。その後、大正十五年七月

年十月帰朝した。

昭和八年七月二十七日、創立二十五周年記念式に際し、二十

十五年勤務功労者として管理県知事より表彰された。同八年七月二十七日熊本県阿蘇郡杖立温泉において穿孔性腹膜炎にて急逝した。行年五十六歳。勲五等瑞宝章。

真言宗智山派高僧が — 母娘遍路像供養 —

全生園真言宗大師堂建立十五周年記念式典が行われた四月十六日、式典に先立ち午前中、資料館において智積院、成田山新勝寺、川崎大師、高幡不動、高尾山薬王院などの高僧二十三名、

に閉じこもりがちな各センターの方たちも青空のもと羽を伸ばし午後のひとつきを楽しんだ。

御詠歌連、全生園大師講の信者など二十五名が参加して、母娘遍路像の法要が行われた。



第20回夏期大学

八月に全生園で再開

笹川記念保健協力財団の後援を得て毎年つづけられてきた「ハンセン病医学講座・夏期大学」は、平成七年の第十九回講座をもって閉じられると案じられていたが、この程厚生省事業として国立感染症研究所ハンセン病研究センターが主催して、次の要項で再開されることになった。

期日・八月二十五日(月)

〜二十九日(金)

場所・多磨全生園研修棟。二十七日は資料館見学と入所者の話を聞く時間も計画されている。

◎あとかぎ

今回は毎号載せてきた来館者の声欄を休んで記録映画「見えない壁を越えて」の感想文を載せた。

前回は今回も貴重な意見が沢山あり選択に迷った。見られなかった方は「ビデオ」をどうぞ！ (修)